

令和 3 年 6 月 4 日現在

機関番号：34504

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00363

研究課題名(和文) 台南文学の研究 日本統治期の中国語文学を中心に

研究課題名(英文) The Chinese Literature in Tainan under Japanese Colonial Rule

研究代表者

大東 和重 (OHIGASHI, Kazushige)

関西学院大学・法学部・教授

研究者番号：60434859

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,800,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、日本統治期の台南における文学活動について、台湾人作家による中国語を用いた文学を中心に研究した。日本統治期の台湾では、台湾人による文学活動が、台中や台北などの都市で日本語や中国語を用いて展開された。一方、長く台湾の中心都市だった台南は、台湾の歴史が刻まれた古都で、古典中国語を用いた文学活動や教育が盛んだった。本研究では、主に中国語で執筆した文学者を中心に、台南における文学活動や民俗研究について研究した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、日本人作家や台湾人作家による日本語文学と対比しつつ、台湾人作家による中国語文学に光を当てた。その結果、台南という植民地の地方都市が持った、複雑な文学のあり方を検討し、文学史の再考を試みることができた。また、民主化・本土化の進む台湾・台南における郷土研究に対しても、日本の学術界から一定の貢献ができたと考える。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this research is to examine the literature written in Chinese by Taiwanese writers in Tainan during the period of Japanese rule. During the period of Japanese rule in Taiwan, literary activities by Taiwanese were carried out in Taichung and Taipei using Japanese and Chinese. On the other hand, Tainan, which had been the center of Taiwan for a long time, was the oldest city in Taiwan, and literary activities using classical Chinese were popular. In this study, I focus on literary activities and folklore research in Tainan written in Chinese.

研究分野：日中比較文学

キーワード：台湾文学 比較文学 日本文学 中国文学 台湾研究 台南研究 植民地研究 文学一般

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

台湾の民主化や本土化が進むとともに、1980年代以降、台湾で最も長い歴史を誇る南部の古都、台南の歴史や文化の研究は進展してきた。国立成功大学や台南大学等の学術機関、南瀛研究中心や台南文史協会等の研究機関、さらに国立台湾文学館や台湾歴史博物館が開設されて拠点となり、新たな研究が続々と展開されている。地方自治体から研究叢書が刊行されるのみならず、台南市立図書館・国立台湾文学館などからは、日本統治時代の主要作家の全集や日記が刊行され、また新聞雑誌についても、地元で発行されていた新聞が復刻されるなどした。

研究代表者は1999年から2年間台南に滞在した経験があり、2000年代の後半以降、滞在経験を生かして台南文学研究を進めてきた。2011年から3年間、科研費の助成を受けて、日本統治期の台南文学研究に専念し、日本人作家を中心に研究した(若手研究(B)「台南文学の研究 日本統治下の日本語文学を中心に」)。つづいて、2015年からの3年間、再び科研費の助成を受けて、今度は台湾人作家の研究を中心に、研究を進めた(基盤研究(C)「台南文学の研究 日本統治期の台湾人作家を中心に」)。この間、研究の成果を、拙著『台南文学 日本統治期台湾・台南の日本人作家群像』(関西学院大学出版会、2015年3月)にまとめた。

本研究(基盤研究(C)「台南文学の研究 日本統治期の中国語文学を中心に」)は、これらの研究に続くもので、特に台湾人作家が中国語によって作り出した文学に焦点を当て、研究を進めた。

2. 研究の目的

本研究では、日本統治期の台南文学のうち、拙著『台南文学 日本統治期台湾・台南の日本人作家群像』(関西学院大学出版会、2015年3月)にまとめた日本人作家、及びすでに論文として成果を公開した、呉新榮・楊熾昌ら以外の、台湾人作家による、主に中国語を用いた活動について研究を進めた。

主要な研究対象としては、主に中国語で文学活動を行った莊松林・趙樞馬・張慶堂ら、及び、戦前から戦後にかけて活動した王育徳や葉石濤らを設定し、台南と関わる創作活動について研究を進めた。

台湾人作家による中国語文学について研究することで、日本人作家・台湾人作家による日本語を用いた文学活動を相対化し、植民地の地方都市である台南を舞台に、より多層的な文学史を描き出そうと試みた。

3. 研究の方法

日本統治期の台南における文学は、複雑な層から構成されていた。対立する複数の要素、日本語と中国語、本島人(台湾人)と内地人(日本人)、台南出身者と一時滞在者・訪問者、こういった対立が台南の文学活動に複雑な側面をもたらした。研究代表者は比較文学比較文化を専門とするが、台南の文学を研究する上でその方法は有効に機能した。

また本研究では、日本統治期の台湾文学のうち、これまで研究してきた日本人・台湾人作家による日本語を用いた文化活動と対比する形で、台湾人作家による中国語を用いた文学活動を研究したが、その際には研究代表者の専門である、中国現代文学研究の手法を生かすことができた。

中国語を用いた文学活動といっても、植民地期に教育を受けた文学者たちは、日本文学から大きな影響を受けている。よって研究代表者の、これまでの日本近代文学に関する研究の蓄積も生かすことができた。

こういった方法を用いることで、中央文壇との関係を視野に入れつつも、単なる植民地文学、地方文学といった位置づけではなく、また単に台南を描いた作家や文学作品を論じるといったスタイルでもなく、そもそも文学史やキャンオンとは何かを再考するような、文学概念自体を相対化する文学史の構築を目指した。

4. 研究成果

(1) 本研究では、以下の書籍2冊、論文1篇を公刊した。

『台南文学の地層を掘る 日本統治期台湾・台南の台湾人作家群像』、関西学院大学出版会、全376頁。平成31年(2019年)3月

：前著『台南文学 日本統治期台湾・台南の日本人作家群像』(関西学院大学出版会、全510頁、平成27年(2015年)3月)では、日本統治期の台南で活動した、日本人作家六名の活動を描い

た。一方本書では、呉新榮・楊熾昌・莊松林・王育徳・葉石濤の五名を中心に、同じく台南で活動した台湾人作家たちの活動を描いた。日本人作家たちが古都台南を愛した以上に、台南に生まれ育ったこれらの詩人や作家、研究者は、台南の地の霊と対話しつつ、台湾の歴史的な地層を掘り進んだ。中でも、莊松林は廈門に留学経験があり、主に中国語で活動した作家・民俗学者である。本書では彼らの足跡を追いつつ、台南に花開いた文学がどのような姿をしていたのかを描いた。

『台湾の歴史と文化 六つの時代が織りなす美麗島』、中央公論新社、中公新書、全 304 頁。
令和 2 年（2020 年）2 月

：台湾の歴史を六の段階に分け、日本統治時代から戦後にかけて台南で暮らした、日本人や台湾人の視点から、各時代の歴史や文化について記した。主な人物としては、『台南文学』『台南文学の地層を掘る』で研究対象とした、國分直一・前嶋信次・新垣宏一・王育徳・呉新榮・王育徳らを視点とした。台湾に居住する、先住民族や漢族らの多様な民族を対象に、オランダ時代・鄭氏政權時代・清朝時代・日本統治時代・国民統治時代について、民俗・宗教・文学などの角度から描いた。

「台南の郷土研究における戦前と戦後 日本統治期から国民党統治期、さらに本土化・民主化の時代へ」、林初梅・黄英哲編『民主化に挑戦した台湾』風媒社、256-277 頁、令和 3 年（2021 年）3 月

：1920 年代の台南では民族運動が盛んに行われたが、1980 年代以降の民主化・本土化の運動と直接連続してはいない。しかし、台南で活動した日本人、前嶋信次・國分直一・新垣宏一らと、台南出身の台湾人、石暘睢・莊松林・呉新榮らは、台南研究において関心を共有し連携した。彼らより下の世代に当たる、黄天横・王育徳・葉石濤らは、前嶋や國分から教えを受けるなどして刺激を受け、また郷土研究において石・莊らと交流を持った。特に黄天横は戦後、台南の市や県の文献委員会や文史協会の主要人物となり、戦前の日本人・台湾人による研究を継承する役割を果たした。本稿ではこれら台南研究者のつながりを明らかにし、戦前と戦後の郷土研究の連続性、さらに 80 年代の本土化との関係について論じた。

(2) また、以下の計 4 回の口頭発表を行った。

「植民地地方都市の文学 日本統治期台湾・台南」、日本比較文学会第 80 回全国大会シンポジウム「地方 というレトリックのあと」、日本比較文学会、日本大学文理学部キャンパス、平成 30 年（2018 年）6 月 10 日

「古都台南の詩人たち 台湾における西脇詩受容の側面」、アムバルワリア祭「西脇順三郎 影響と受容」、慶應義塾大学アート・センター、慶應義塾大学三田キャンパス、平成 31 年（2019 年）1 月 19 日

「台南におけるモダニズム詩人の発掘」、国際シンポジウム「東アジアモダニズム研究の現状と課題」、東アジアモダニズム研究会、九州大学西新プラザ、令和元年（2019 年）7 月 13 日

「帝国の片隅で 植民地台湾における国民動員と文学」、昭和文学会第 67 回研究集会 特集「国民再編の装置としての 祭典」、昭和文学会、オンライン開催、令和 2 年（2020 年）12 月 19 日

(3) 上記以外に、関連する文章を公表した。

「呂赫若「財子寿」を読む コロナ時代の授業の記録」前／後篇、宋元祺との共著、『中国文芸研究会会報』第 465 / 466 号、中国文芸研究会、1-3 / 1-4 頁、令和 2 年（2020 年）7 / 8 月

上記の研究を進める過程で、日本統治期の台南文学と関わる種々の資料や研究書籍を購入・収集した。中でも、台湾文学を論じる上で必要な資料、及び植民地や中国語圏の文学を論じる上で必要な資料・書籍を購入することができた。

当初、年 1 回の現地調査を計 3 回行う予定だったが、新型コロナウイルス流行の影響で、2020 年度の調査は断念した。18、19 年度の調査では、台南の国立台湾文学館や台南市立図書館、国立成功大学図書館等で、関係する資料の調査・収集を行ない、台南文学と関わる資料や書籍を閲覧した。現地の図書館のみが所蔵する資料・書籍も多く、成果があった。また現地の文学研究者と意見を交換し、大きな収穫があった。今後もこれらの資料や成果を生かした研究を継続したい。

(4) 上記の研究以外に、研究題目と関連する研究集会、及び学会分科会を開催したことも、成果の一つと考えている。

2018 年 12 月 29 日に台湾・台南の長栄大学で開催された、言語圏の文学研究会（日本・関

西)・東アジア人文学研究会(台湾・南部)共催の第1回台南合同研究集会(第21回特別例会)では、都通憲三朗「台南地区の祭と地域社会 祭祀圏論を手掛かりに」、黒羽夏彦「國分直一と平埔族研究」、徳永恭子「オーストリアの反郷土文学について」、榊祐一「和歌における風景観の転換 実景論に注目して」、今泉秀人「沈從文の「ミャオ族幻想」について」の各発表を行い、全体で討議をした。この集会で研究代表者は、石井周氏とともに企画・進行を担当した。

2019年6月7・8日に福岡大学で開催された、日本台湾学会第21回学術大会では、分科会企画「台南研究 日本統治期の台南で活動した日本人たち」を組み、黒羽夏彦「日本統治初期台南におけるキリスト教を媒介とした異民族交流 秋山善一・珩三兄弟を事例として」、鳳氣至純平「自分史、地方史としての台湾史、そして台南史 國分直一の台湾史関連論考を事例として」の二つの報告を行い、また植野弘子・角南聡一郎両氏がコメントした。この分科会で研究代表者は、企画責任者・座長を担当した。

上記いずれも、本研究と直接に関わる、研究集会、学会分科会であり、数多くの来聴者を得て、本研究の意義を説明できたと考えている。これらも研究の成果として記しておきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 大東 和重
2. 発表標題 帝国の片隅で 植民地台湾における国民動員と文学
3. 学会等名 昭和文学会第67回研究集会 特集「国民再編の装置としての 祭典 」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大東 和重
2. 発表標題 台南におけるモダニズム詩人の発掘
3. 学会等名 国際シンポジウム「東アジアモダニズム研究の現状と課題」（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大東 和重
2. 発表標題 古都台南の詩人たち 台湾における西脇詩受容の側面
3. 学会等名 アムバルワリア祭第8回「西脇順三郎 影響と受容」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 大東 和重
2. 発表標題 植民地地方都市の文学 日本統治期台湾・台南
3. 学会等名 日本比較文学会第80回 全国大会シンポジウム 「 地方 というレトリックの あと 」
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 林 初梅、黄 英哲	4. 発行年 2021年
2. 出版社 風媒社	5. 総ページ数 312
3. 書名 民主化に挑んだ台湾	

1. 著者名 大東 和重	4. 発行年 2020年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 304
3. 書名 台湾の歴史と文化 六つの時代が織りなす美麗島	

1. 著者名 大東 和重	4. 発行年 2019年
2. 出版社 関西学院大学出版会	5. 総ページ数 376
3. 書名 台南文学の地層を掘る 日本統治期台湾・台南の台湾人作家群像	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------